

動物実験に関する自己点検・評価報告書

(対象：平成19年度・平成20年度)

三重大学動物実験委員会

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 ☐ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 三重大学動物実験取扱規定（平成 19 年 4 月 1 日施行）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 機関内規程が適性に定められ整備されている。
4) 改善の方針 該当せず

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 ☐ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・三重大学動物実験取扱規程（平成 19 年 4 月 1 日施行） ・三重大学動物実験委員会規程（平成 19 年 4 月 1 日施行） ・三重大学動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 三重大学動物実験取扱規程に基づき、三重大学動物実験委員会が設置され適正に運営されている。
4) 改善の方針 該当せず

3. 動物実験の実施体制

（動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められているか？）

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 ☐ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検の対象とした資料 ・三重大学動物実験取扱規程（平成 19 年 4 月 1 日施行） ・三重大学動物実験取扱細則（平成 19 年 4 月 1 日施行）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 三重大学動物実験取扱規程および三重大学動物実験取扱細則に則り、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の実施体制が適正に定められている。
4) 改善の方針 該当せず

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

（遺伝子組み換え動物実験、感染動物実験等の実施体制が定められているか？）

1) 評価結果 ☒ 基本方針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 ☐ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・三重大学動物実験取扱規程（平成 19 年 4 月 1 日施行） ・三重大学組換え DNA 実験安全管理規程（平成 18 年 5 月 25 日規程、平成 20 年 4 月 21 日規程） ・三重大学生命科学研究支援センター動物実験施設利用規程（平成 16 年 7 月 14 日施行）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 全学動物実験規程に則り、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が整えられ、基本方針に適合している。
4) 改善の方針 該当せず

5. 実験動物の飼養保管の体制

（機関内における実験動物の飼養保管施設が把握され、各施設に実験動物管理者が置かれているか？）

1) 評価結果 ☒ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・三重大学動物実験取扱規程（平成 19 年 4 月 1 日施行） ・三重大学生命科学研究支援センター動物実験施設利用規程（平成 16 年 7 月 14 日施行）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）
規程に則り、本学の実験動物飼養保管施設が把握され、同施設に実験動物管理者が置かれている。

4) 改善の方針
該当なし

6. その他（動物実験の実施体制において特記すべき取り組み及びその点検・自己評価）

該当なし

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

（動物実験委員会は、機関内規定に定めた機能を果たしているか？）

1) 評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。
☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・三重大学動物実験委員会規程（平成 19 年 4 月 1 日施行）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

- ・三重大学動物実験委員会規程に基づき、適正な活動を実施している。

4) 改善の方針
該当せず

2. 動物実験の実施状況

（動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか？）

1) 評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・三重大学動物実験計画承認報告書
- ・動物実験完了（中止）報告書

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） ・ 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針 該当なし

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況
（当該実験が安全に実施されているか？）

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、該当する動物実験が適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 三重大学動物実験計画承認報告書 ・ 動物実験完了（中止）報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理を要する動物実験が適正に実施されている。
4) 改善の方針 該当せず

4. 実験動物の飼養保管状況
（飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか？）

1) 評価結果 ☒ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実験動物の飼養保管がされている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 三重大学生命科学研究支援センター動物実験施設利用規程（平成 16 年 7 月 14 日施行）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管は飼養保管マニュアル等により適切に実施されている。
4) 改善の方針 該当せず

5. 施設等の維持管理の状況

(機関内の飼養保管施設は適正な維持管理が実施されているか？修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか？)

1) 評価結果 ☒ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・施設等（実験室）設置承認書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 機関内の飼養保管施設は、適正に維持管理が実施されている。将来的には補修や改善が必要である。
4) 改善の方針 補修や改善の必要性について概案を作成する。

6. 教育訓練の実施状況

(動物実験に関わる教育訓練が実施されているか？)

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・三重大学における動物実験教育訓練の実施状況 平成 19 年度 実施回数 9 回、受講人数 459 人 平成 20 年度 実施回数 9 回、受講人数 214 人
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） ・三重大学動物実験取扱規程に基づき、適正に実施されている。
4) 改善の方針 該当しない

7. 自己点検・評価、情報公開

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか?)

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に自己点検・評価、情報公開が実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験に関する自己点検・評価報告書 ・三重大学ホームページ
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 情報公開を予定している。
4) 改善の方針 該当せず。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項およびその結果)

1) 三重大学動物実験委員会の構成 三重大学動物実験委員会規程 第3条に掲げる委員 ・理事のうち学長が指名した者 1名 ・生命科学研究支援センター長 ・生命科学研究支援センター動物実験施設統括責任者 ・生命科学研究支援センター機能ゲノミクス分野動物機能ゲノミクス部門の 専任教員(実験動物管理者) 1名 ・医学部又は医学系研究科から推薦された大学教員 2名 ・生物資源学部又は生物資源学研究科から推薦された大学教員 1名 ・その他学長が必要と認めた者
2) 三重大学における動物実験計画書の審査状況(別紙1)
3) 三重大学における実験動物の種ごとの入退舎数について(別紙2)
4) 毎年、実験動物感謝式を実施している。

■動物実験計画の承認/継続/終了件数

年度	医学系研究科・ 医学部附属病院	工学研究科	生物資源学研究科	生命科学研究 支援センター
平成 19 年度				
終了	23	4	0	2
継続	28	0	0	0
承認	36	0	3	1
平成 20 年度				
終了	36	0	1	0
継続	28	0	2	1
承認	47	2	1	1

■部局別の実験動物の入退舎数

平成 19 年度 入舎数

	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	イヌ
医学系研究科・医学部附属病院	22,458	2,304	193	33	35
工学研究科	96	0	0	0	0
生物資源学研究科	66	100	0	0	0
生命科学研究支援センター	982	72	0	0	0
合計	23,602	2,476	193	33	35

平成19 年度 退舎数

	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	イヌ
医学系研究科・医学部附属病院	22,620	2,337	241	41	9
工学研究科	82	0	0	0	0
生物資源学研究科	74	137	0	0	0
生命科学研究支援センター	1151	58	0	0	0
合計	23,927	2,532	241	41	9

平成 20 年度 入舎数

	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	イヌ
医学系研究科・医学部附属病院	26,023	2,581	302	0	0
工学研究科	93	0	0	0	0
生物資源学研究科	155	0	0	0	0
生命科学研究支援センター	760	0	0	0	0
合計	27,031	2,581	302	0	0

平成 20 年度 退舎数

	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	イヌ
医学系研究科・医学部附属病院	22,620	2,429	296	2	11
工学研究科	93	0	2	0	0
生物資源学研究科	155	0	0	0	0
生命科学研究支援センター	812	82	0	0	0
合計	23,680	2,511	298	2	11